

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	「城下」にしありえ
所在地 (県・市町村名)	南島原市西有家町龍石1417-1
記入者名 (管理者)	山下 郁子
記入日	平成 19年 12月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		出来るだけ孤立することなく、外へ出かけ外部と係わることのできる支援を心がけている。また、本人が行きたい場所、したい事が出来る支援を心がけている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		敬意を持ったの日常の声かけ、感謝の思いを忘れないよう笑顔で毎日を過ごせるよう支援していきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		地域の中で、よく畑の行き帰りなど尋ねてきてくださり、お茶を飲みながら話されたりする。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		近隣の方は利用者や職員の顔を覚えていてくださっており、よく挨拶などをしてくださる。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		施設側から地域に何かできることはないか？(たとえば花の苗を育て、利用者と共に配る等)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者・障害者活動にボランティアとして参加している職員はいるが、施設活動としてではない。		施設・法人活動として話し合い、地域活動に参加できればと考えている。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義を理解している。昨年の指摘事項をすぐ実行できるよう話し合いをもった。		簡単なこと、毎日できることなどが、日々生活していくうちに次第に薄れていっているようだ。掲示するなどして、心がけていこうにしたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告や話し合いを行っているが、お願いすることのほうが多く、もっと地域に役立つことはないかと思う。		1回/2ヶ月は開催が多すぎるとの声も聞かれた。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のみの参加でしかない。その他書類提出時のみ管理者が持っていくている。		電話や来荘していただきたいのですが、担当者の仕事の都合もあるので担当者の意識に期待したい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会等参加して勉強しているのだが、今の所必要な人がいない。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議や研修会等で勉強している。又、各施設で虐待拘束委員を選任して、話し合う機会をもっている。		虐待拘束委員でのチェックリストの作成や指導を行っていききたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約は管理者が行い説明する。		基本的には管理者・責任者が行き十分な説明で同意を得ることとしている。
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者が言葉にすることは少ないが、表情や行動ですぐに読み取ることが出来るように心がけている。		職員が、利用者が毎日不安なく楽しく過ごせるようサインを見逃さないようする必要がある。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	家族の面会が比較的多く状態報告などは行っている。あまり面会にこられない家族には電話連絡をするようにしている。		施設新聞やお便りをもっと多く出していきたい。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族の中にも意見をはっきり言われる方と言われない方がいらっしゃるのと言われない方にも言いやすい環境整備が必要では。		アンケート用紙を玄関に準備しているが、書かれないので他に対策を考えたい。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎月1回の代表・各施設管理者参加の管理者会議を行い施設の状況や職員の状況を話し合っている。		管理者会議の内容は各施設の職員会議にて管理者が報告している。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	行事や通院などに対応できるようあらかじめ勤務表を作成している。		その他必要になった場合は、他の職員に勤務してもらいその日の状況にあわせて対応している。職員も協力的である。
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	ほとんど職員の移動はない。		管理者会議にて移動の場合はあらかじめ話し合われる。利用者の状況や職員関係などを考慮したうえ。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各種研修の掲示などを行っている。参加希望があれば勤務交代などをして、できるだけ参加できるようにしている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム研究会があり他の施設との交流会や事例発表会などもあり勉強になる。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スポーツ大会や交流会などをして色々話せる場面作りをしている。</p>	<p>職員旅行などをしてリフレッシュできるようにしている。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>法人代表が職員の能力や勤務状況によって行っている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>まずアセスメントや利用までの状況を本人・家族から聞きだす。</p>	<p>本人が望まれている暮らしが実現できるように相談後、職員で話し合う機会をふやしたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>まずアセスメントや利用までの状況を本人・家族から聞きだす。</p>	<p>家族と利用者の意見が違う場合がおおいので、状況を把握し柔軟に対応する必要がある。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の日頃の日課や生きがいを見つけ出し出来るだけ近づけるように心がけている。家族や本人がどのような支援を求めているのか聞き出し対応している。		訪問看護や病院受診などをもっと積極的に実行していきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所時は徐々に馴染めるようにスタッフが仲介役を勤め家族や本人とよく話し合いながら行っている。		2～3日は遊びにこられ入所を決められた方もあったが、体験入居が出来ればスムーズにいくと思われる。(利用者が多く宿泊できる場所がない)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔からの習慣、今までの苦労話などを一緒に話すことにより出来るだけ本人の気持ちに添えるよう支えあう援助を行っている。又お礼を言える場面作りを作るよう心がけている。		お互いに家族のようになれたらいいと思う。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に支え合う場面を作るよう心がけている。家族に助けを求めたり、話し合える関係を築くよう心がけている。		利用者の家族とも、もっといい関係が築かれるよう他に考えなければならない。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係が必ずしもいい関係だとは限らない。少し距離をおくことで改善される場合もあり、関係をよく読みとり支援しなければいけないと考える。		家で一緒に暮らしていた頃より、お互いが優しくなれた。との意見もあった。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との面会や場所へ行くことは支援している。		本人がうまく伝えられないことが多く、職員はそのことをよく読みとり支援していかねばいけない
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	出来るだけ仲に入りよい関係が築けるよう支援している。		常に利用者のそばに居ることはできないので、日々の生活で観察することがもっと必要だと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	希望があればそのようにすべきだと思う。		以前、退所後に家族と話をする機会があって、なかなか家族の方が話そうとされなかった。本人は久しぶりだと懐かしそうに話されていたのだが・・
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握に努めている。本人の望みを出来るだけ叶えられるよう検討支援している。		ケアプランなど家族や本人の意向に添って立案している。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにて生活歴や環境などを把握している		家族と本人が言われる事が違う場合があるので、よくお互いに話を聞くことが大切だと思う。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の能力が発揮できるような場面を作り出すよう努力している。得意なことは喜んで行動に移され満足感も得られている。		本人が言われない方や、あまり行動されない方の支援も職員が何か見つけて支援していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア会議等でよく話し合う機会を設けている。		介護計画は三項目目標を掲げ統一したケアを行うよう心がけている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の悪化又は改善が見られる場合は、ケア計画の変更を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録により日々の情報を共有している。記入した職員の名前を記入し詳しいことを知るため質問できるよう心がけている。		連絡ノートや日常記録を活用している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や、本人の行きたい場所などがある場合はそれによって職員が役割を分担し柔軟な支援が出来るよう心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	夏祭りのボランティアの活用や地域の消防団との訓練などを行っている。又小学校などに出向き行事に参加している。		外出する場合は障害者トイレが少ないので、限られた場所に行くことが多い。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険外の無料サービスは利用できるが、他のサービスの利用などは難しい。		以前監査で色々な場所に行って、サービスを利用するとGHの介護は行っていないと指摘を受けたこともあり、どこまで利用できるのかわからない。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターからの相談は受けたこともある。		研修会での話や、要介護者の相談のみである。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医療機関とよく相談し、本人や家族が安心していただけるよう心がけている。		利用者のかかりつけ医で、あまり相談を受け入れていただけない医療機関もあるので困っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の協力医があり、認知症の進行状況などを相談できる医療機関がある。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員や往診時に医師や看護師にアドバイスを頂いている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関との連携がスムーズに行われ入院などにも必要な場合のみにして頂いている。		施設で出来る場合は医師がこられ対応してください。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナル支援の話を利用前に行い家族の意向などを医師と共に考えている。		出来るだけ本人や家族の望まれる終末期を迎えていただけるよう又本人が淋しいおもいをされないよう心がけている。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療機関とうまく連携をとり準備している。		協力医療機関の医師との話し合いがうまく行われている。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報提供書などで詳しく情報交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人格を尊重した言葉かけを行っている。</p>	<p>個人情報家族の同意を得ないと出さないようにしている。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>その人に合わせ気持ちを聞き出したり、自分で決定できるように支援している。</p>	<p>日常生活の合間に出てくる言葉や表情に気をくばり、その方の考え方などをもっと配慮する必要がある。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人一人のペースを大切に、本人の希望に添った一日を過ごせるように支援している。</p>	<p>すべて希望に添っているかといえはまだ充分ではない。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理美容は本人が希望されれば付き添いで行っている。</p>	<p>以前は付き添いで行っていたが、今現在は施設で行っている。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>楽しく食事が出来るように、席の配置をしている。しかし生活習慣が個々で違うので難しい場面もある。</p>	<p>職員が間に入り一緒に食事をしているが、認知症の状態の違いや、心身の状態の違いなどで席の配置がむずかしい場面もある。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人の望み通りとは行かないが、おやつやお茶会など楽しく出来るように日常的に支援している。</p>	<p>タバコやお酒なども利用者に配慮して行っている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	人前での声掛けや誘導には充分配慮して行うようにしている。		重度者への交換や清拭などをこまめにするように行う。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自立入浴が出来る方には支援している。		重度者への入浴はどうしても職員の多数の介助が必要になるので、日中に行わなければならない。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休息の時間は自由だが、その間の見回りなどは徹底している。		主に本人の意思を尊重して職員が指示をすることはしない。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活が同じにならないように、外出したりレクを取り入れたりしている。		1日1回は外出できるように心がけたい。特に寝たきりの方へもデッキに出て気分転換を毎日取り入れたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族が行っている。		希望があれば応じている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日中の戸締りは行っていない。いつでも外に出れるようになっていく。		車椅子の利用者やこもりがちになっている利用者にも外出が出来るように心がけたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	4施設合同でバス旅行を行い家族の参加も促している。		外出できる場所を増やし家族との交流を沢山心がけたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添えるよう心がけている。		電話の使用や、手紙のやり取りなどを行っている利用者もある。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪ねてきていただけるよう面会の時間は決まっていない。快く迎えることが出来る。		個人的な友人など車でこられる方は良いが、地理的に不便な場合もあるのでお迎えにいける方は行きたいと思う。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員を選出し法人内で取り組んでいる。		個々の職員が身体拘束の内容を理解し、利用者が楽しく生活できるよう心がけている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の戸締りは行っていない。いつでも外に出れるようになっている。		夜間の戸締りだけは行っている。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全確認は常に行っている。外出される方もさりげない見守りを行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物品は決まった場所におくようにしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	避難訓練や、事故防止マニュアルを作成し取り組んでいる。		研修などに参加しもっと身に付けたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	カウンターに応急手当のマニュアルをおいて、いつでも見れるようにしている		研修会で勉強したがまだ充分ではない。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回以上の避難訓練を行っている。		地域の消防団、消防署との合同避難訓練も行っている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に家族に起こりうる場面などを話し、理解していただけるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	たとえ小さな事でも申し送りを欠かさず行い、健康面では早期発見・改善に努めている。		大事に至らないよう早めに医療機関へ相談したり受診したりしている。本人の訴えがない場合があるので日頃のバイタルチェックは欠かせない。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成し副作用の理解や用法などを理解している。		医師と相談しながら用法・用量などを行っている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防に取り組んでいる。		体操や、食事に野菜を多く取り入れたり行なっているが、職員全員が常に勉強していきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食事の様子に気をくばり、早期発見に努めている。		口腔ケアの声かけを食事後に行なっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の状態をよく観察して記録するようにしている。		あまり食べれない方には、調理の工夫を考え少しでも摂取していただくようにしていきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがあり全職員が心がけている		面会者や職員、利用者とも手洗いうがいを徹底し菌を持ち込まないよう心がけている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の整理整頓を必ず行なう。		食べ残しやあまったものは残さず、その日に処分してしまうことを心がける。また冷蔵庫の整理整頓を心がける。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関のスロープやイスの設置		玄関先や内にイスを設置することで、外部からこられた方も気軽に座ることが出来る。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節の花や、今月の行事の内容などを掲げ皆さんがいつも見られるようになっている。		寝たきりの方も入り口を空けると、居間が見えるようになっている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間やデッキなどで思い思いに過ごせるようになっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	出来るだけ本人の意向に合った部屋作りをしている。		季節が変わるごとに、部屋の模様替えを本人と一緒に行な いたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	利用者に聞いて換気を行なっている。においがしないよう に、床のそうじを行なっている。		個々の部屋は起床時に換気を行なうようにしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	必要な場所に手すりをつけている。室内は利用者が動きや すいようになっている。		歩行器や押し車で移動できるローカである。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	本人の能力が発揮できるような場面を作り出すよう努力して いる。得意なことは喜んで行動に移され満足感も得られてい る。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	施設の外は散歩できるようになっている。レクを行なったり、 弁当を食べたり行なっている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・利用者が毎日を楽しく暮らせるように、また活動する場面を作るよう工夫する。(城下音楽祭の開催で利用者と職員が音楽の演奏をする)又、外出する機会を増やし、色々な風景や子供達とのかかわりをもつことで、感動する場面を作り出す。